

## 福祉計画検討委員会 議事録

事務局出席者 健康福祉部健康・保険担当部長兼保健センター所長

高津 和憲

保健センター所長代理兼主任

西條 ひろみ

高齢福祉課課長代理

寺尾 陽子

高齢福祉課主任

菅井 雅一

### ○議事録

議 長        それでは、最後の案件になります「なわて高齢者プラン」についてご審議いただきます。事務局よろしくお願いします。

事務局        本日は、貴重なお時間をいただき有難うございます。最後の案件でございますのでよろしくお願いいたします。まず事務局の紹介をさせていただきます。私の一番向こうから健康福祉部健康・保険担当部長兼保健センター所長の高津でございます。続きまして保健センター所長代理兼主任の西條でございます。それから高齢福祉課課長代理の寺尾でございます。そして最後に私高齢福祉課主任の菅井です。よろしくお願いいたします。それでは座って説明させていただきます。

事務局        それでは保健センターの方から説明させていただきます。お手元の資料をご覧ください。

まず①の健康診査及び検診でございますが、昨年度から特定健康診査につきましては、費用を無料で実施しており、25年度から3.3ポイント受診率が上昇しています。また、胃・肺・大腸がん検診を同時実施できる受診機関において子宮および乳がん検診も受診可能としました。今年度は、四條畷市国民健康保険加入者のみならず、社会保険と連携した取り組みとして協会けんぽの加入者の特定健診時にがん検診の啓発等を行います。

次に②の健康手帳につきましては、昨年度に引き続き、40歳以上の検診などの実施時に交付しています。また、自身の健康診査及び検診の履歴や健康管理に活用いただくため、啓発を行なっていきます。③の訪問指導につきましては、緊急通報装置を希望するひとり暮らしの虚弱高齢者の訪問が主となっております。年々少なくなっておりますが、地域の民生委員、地域包括支援センター等と連携をとり

ながら、実施しています。

④健康教育につきましては、今年度も引き続き、生活習慣病予防や介護予防を中心とした健康教室を、保健センターや公民館等で実施しております。また、市職員が地域に出向いて行なう「なわて出前講座」にも健康に関する講座メニューを開講しています。今年度も、熱中症の予防と対策についての啓発を強化していきます。

⑤健康相談につきましても、引き続き、毎週 1 回の定例日を設けて実施しています。また健康教育やがん検診時の機会にも健康相談を実施しています。回数は減少していますが、担当する職員を増やしたため、延べ人数は増加しています。

⑥リハビリテーションにつきましては、個別支援においては、ケアマネジャー等との連携のもと実施します。また、地域包括支援センター等からの依頼により、保健センターの理学療法士や作業療法士等が体力測定等を行ったり、出前講座など地域からの依頼を受けた場合など、転倒防止や介護予防のための啓発を行います。

以上でございます。ありがとうございました。

事務局 続きまして、高齢福祉課の方から説明させていただきます。お手元の資料をご覧ください。2 番社会参加の促進（3）生きがい・交流事業の充実の⑤地域支え合い体制づくり事業の推進でございます。

本市では、地区・地域の高齢者支え合い体制づくりに対する取り組み支援について、平成 23 年度に大阪府の地域支え合い体制づくり事業交付金を活用し、「地域支え合い体制づくり事業」と総称して地域の公民館等での活動備品の購入補助を行いました。

また、昨年度には地区の福祉活動主体が実施する独居高齢者をはじめとした高齢者のつながりづくりのための各種事業を育成・支援することを目的として、消耗品の購入助成を実施しました。

今年度は、消耗品の助成のみでは使い辛かったという地区からの指摘も踏まえ、あらためてこれまでの活動をはじめとした取り組みなど、地区・地域で行う高齢者の「ふれあいを育む活動」を、他地区・他地域の市民でも一定数が利用できるよう、ふれあいサロン〇〇〇と称して育成・支援し、利用の使途を消耗品及び備品のほか、講師謝礼、光熱水費並びに施設使用料（活動相当分）を対象とした補助金制度としました。

これまでの取り組み経過ですが、5 月 20 日の区長会から各ふれあいサロンなどを含む 27 地区に説明を行ったうえで、7 月 17 日ま

でを申請期限として受付を行いました。

現在14地区からの申請があり、今後は速やかに補助金交付の手続きを進めるとともに、今回申請されなかった地区に対しましても、再度説明を行い、ふれあいサロンを各地域に広めていきたいと考えています。

次に、④交流やふれあいの場・機会づくりでございます。  
楠風荘では有意義な時間を過ごしていただくため、大広間において時代劇やコメディ、ホームドラマ、アニメなどの映画上映を行うなど、毎月いろいろな催しを実施しております。また、健康の維持と親睦を図るため、引き続き好評の健康フラダンスをはじめとした健康事業も実施していきます。平成26年～30年度の5年間、(株)ビケンテクノに対し、引き続き指定管理者を委託することにより、今後も民間事業者のノウハウを活用し、利用者が日々の生きがいづくりや各サークルの会合等、ふれあいのオアシスの場・生涯学習の場として大いに利用してもらえるような施設を目指していきます。

また、来る9月11日(金)には市民総合センター市民ホールにて、敬老会を開催いたします。本年度は、市制施行45周年記念事業として実施させていただきますが、1部の式典を大いに盛り上げたく、今年度に100歳を迎えられる市民の方に一人でも多く登壇していただきたいと考えており、今年度は11名の方が表彰の対象となりますが、当日は4名の方に出席いただく予定といたしております。また、2部のお祝いイベントにおきましても、高齢者の皆さんに楽しんでいただけるよう、ジャグリング曲芸ショーや演歌歌謡ショーを予定しております。例年同様、老人福祉施設の入所者を招待するなど、高齢者の皆様に配慮しながら取り組んでいきます。

なお、今年度も100歳表彰者のもとを全て訪問し、直接お祝い状をご家族様や施設の方々などが同席のうえ、お渡しさせていただくことで、表彰者本人だけでなく関係者の方々に喜ばれるよう、長寿の祝いにふさわしい事業としていきます。

次に、3番日常生活を支援する体制の整備・強化の(1)介護保険制度以外の高齢者福祉歩サービスの充実の⑦生きがい生活支援型の通所事業でございます。

「街かどデイハウスさんら」につきましては、現在の週4日(月・水・木・金)の開所日を週5日(月～金)に拡大を図りたく、更なる利用者増を目指し、運営委員会に対する助言などを行うとともに、府交付金の確保に努めていきます。

「ふれあいサロン」につきましては、男性向けサロンを含め、5箇所において安定した活動を続けておられます。引き続き、生きがいづくりや引きこもり予防、ふれあい活動等を主たる趣旨とする支援・補助を行っていきます。

「ふれあい元気クラブ・えんじょい」につきましては、平日の午前10時から午後4時の間で午前と午後に分け、囲碁・将棋をはじめとした娯楽や書道教室、健康体操、歌体操などを実施しています。口コミなどにより来場者数は増加してきましたが、西部市街地における高齢者がふれ合える拠点施設として、その役割を達成しつつあるものの、プログラムが一部定まっていない時間帯もあることから、確定を急ぐとともに、引き続き市民への周知を図っていくことが必要と考えております。

以上の通所事業につきまして、今年度も地域支え合い体制づくり事業の一環として引き続き、推進・支援してまいります。

続いて、2番社会参加の促進の(3)生きがい・交流事業の充実の②交流ふれあい(生きがいと健康づくり)事業でございます。

当事業は例年、大阪ガスグループ福祉財団の協力を得て夏期と冬季に実施していますが、無料講座ということで近年特に人気があり、昨年あたりから予約が難しく、夏季については実施が適いませんでした。今後の開催が危ぶまれますが、再度大阪ガスグループに対し依頼・調整を行ってまいります。

次に、(2)地域福祉活動への支援、イの民生委員の活動でございます。緊急連絡カードの配布事業を民生委員に依頼して4年が経過し、昨年の秋には、民生委員が実施する高齢者実態調査に合わせ、住民基本台帳を提供してあらたに970世帯に配布していただきました。引き続き、個人情報の取扱いには細心の注意を払うとともに、キットの配布が平素の見守り活動として、配付者に対する定期的な訪問等につなげていくことが必要と考えています。

続きまして、4番、地域包括ケア体制の強化(1)地域包括支援センターの機能強化と(2)地域包括ケアシステムの基盤となるネットワークや体制の整備でございます。

昨年度は市広報誌に毎月、包括支援センターの活動内容の特集記事として掲載し、更なるPRを行いましたが、今年度もくすのき広域連合からの折込み記事と合わせ、毎月広報に包括のイベントを掲載し、引き続き周知啓発に努めてまいります。

また、各包括支援センターが自治会やふれあいサロン等の地域活

動に参加することにより、それぞれの地域に合わせた相談体制や支援体制を構築していくとともに、高齢福祉課職員と地域包括ケア会議を積み重ね関係機関との連携に努めていきます。

次に、医療と介護の連携強化でございます。在宅医療・介護連携の推進のため、医療・介護連携推進運営委員会を中心に関係機関等との連携を深めるとともに、課題の整理を行い、優先順位の検討や課題解決に向けた研修会の開催等、取り組んでいきます。

より細やかな地域ケアネットワークの構築を図るため、地域ケア会議との整合性を図りながら、地域包括支援センター、介護事業者、医療機関、四條畷保健所、三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）等との連携をより一層推進していきます。

最後に、「俳句のまち四條畷」575ブレスレット配付事業でございます。「四條畷市」の全国的知名度向上を図るため、郵便番号575に掛けた「俳句のまち四條畷」と印字したブレスレットを65歳以上の市民で希望する方に配付します。普段から身に付けていただくことで、四條畷市の啓発に繋がるだけでなく、行方不明時に居住地がわかることで身元情報のひとつとなり、早期発見、安全確保の一助となることを目指します。現在ブレスレット配付に向け、要綱の作成準備に取り掛かるとともに、年内配付を目標に作業を進めています。また、警察をはじめ介護事業所等の関係機関に事業の周知を行うとともに、今後は徘徊等による高齢者行方不明時の身元情報としても活用していきます。

高齢者の方に、四條畷市啓発にご協力を賜ることで、自分の住むまちに愛着が深まるとともに、万一の時の備えのひとつとなり、ご本人やご家族の安心に繋がることを目指します。

以上を持ちまして、高齢福祉課の説明を終えさせていただきます。ありがとうございました。

議長        はい、ありがとうございました。ただ今の報告につきまして、委員の皆様、何かご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

山上委員    保健センターの方ですが、上手く説明いただきましたけれども、保健センターの検診ですが、これは年1回の実施ということですかね。これは重複されていないのですか。同じ方が受けているということはないのですか。この辺りは調べておられますか。

事務局 受診券を国民健康保険の担当課から 7 月に送付させていただいております。但し、年度途中で 75 歳に到達された方については後期高齢者になりますので、実質 2 回受けることは可能なのですが、基本的にはどちらか一度受けて下さいとご案内をさせていただいております。基本的には年 1 回となっております。

山上委員 同じ方ばかり受けているのかなと心配しておりましたので。市民全体でということであれば、もっと広げていかなければならないとちょっと思いましたので。

事務局 四條畷市国民健康保険の方だけの数字となっております、先ほど少しがん検診のところで説明させていただいたのですが、社会保険や協会けんぽさんとかで検診を受けておられて、今年でしたら 9 月に体育館のサン・アリーナを 2 日間借りられて合計 200 名程の方が特定健診を受けられる予定なのですが、そちらでがん検診の啓発を去年から市が出向いて実施しているのですが、連携して行こうと考えています。

山上委員 それと訪問指導なのですが、地域包括支援センターとの連携は常に取りられているのですか。

事務局 高齢者に対する訪問は少なくなっており、地域包括支援センターの方で基本的には最初の相談を受けていますが、時折、高齢者を持つご家族から連絡があり、必要に応じて地域包括支援センターと連絡を取り合い、状況を見て介護保険に繋がたら良いとか、介護予防のカラコロ体操に繋がたら良いなど、必要なサービスに繋がれるよう連携に努めております。

山上委員 四條畷市の西部側ですが、ひとり住まいの高齢者が多くなっていると聞きますけれども、包括支援センターの担当者の方で分かっている所は廻られていると思うのですが、地域とのネットワークが隅々まで浸透しきれていないのではと心配しております。地域包括支援センターの職員は社会福祉士や看護師であるので地域とのネットワークの構築がなかなか難しいと思うのです。ですから行政がきっちりと入ってやられた方が良いと思うのですがその辺りはどうですか。

事務局        保健センターの地区活動の数は減ってきているのですが、地域の健康教育の方で熱中症などの話をさせていただいております。一人暮らしの独居老人の会というものがありまして、そこから地域福祉の方の小地域ネットワークとか、そういった形に変わってきているのですが、そこで健康の話とご予約いただきまして、出前講座を行っております。また地区の団体の研修にもお伺いいたしまして体操や認知症予防の話なども行っております。そういった場所で地区の民生委員と関わりがありまして、気になる高齢者の方とか緊急通報装置のことなどご相談があれば話を伺っており、それらを通して地域包括の職員と一緒に活動を行っております。

山上委員        そうですね。これは民生委員の方が把握されているのではないかと思います。地域包括支援センターが反対に民生委員に協力を求めていくというのが現状でないかと思うのですが、民生委員を主として社会福祉協議会を含めたところの運営をされた方が幅が広がるものと見ております。また、区長さんにもお願いしていただけたらと思います。市長の委嘱を受けておられるのですから。それとリハビリとケアマネとの関係についてですが、実際のところ連携が図れていますか。

事務局        ケアマネジャーはかなり熟練されてきていまして、保健センターへの依頼がかなり減っているというのが現状です。行政の理学療法士の役割というのが一定周知されてきているのかなというのがありますが、やはり未だケアマネジャーでも得意な方とそうでない方がいらっしゃるのかなと思っております。

山上委員        そうですね。ケアマネさんをもっと使うべきと思うのですが、事業所との関係があって難しいと思うのですが、市として、保健センターとして連携を取っていく必要があると思うのですが。それと実際のケアマネの数を把握されておられますかね。くすのき広域連合でも把握されていないということですが。ちなみに3、4年前の数字ですが、守口と門真、四條畷の3市でケアマネに支払っている額は年間で9億5千万ですよ。その所の関係性をしっかりと調べられたら、やはりもっとケアマネさんを引っ張っていかないといけないと思うのです。いろいろ連携を取ったりすればもっと有意義になると思うのですが。

事務局           ありがとうございます。

議 長           はい、ありがとうございました。他にご意見ご質問等ございませんでしょうか。

山上委員       高齢者担当の方ももっと区長にお願いして下さい。前にも言っておりますが高齢者の実態把握に努めるために必要だと思います。時間の都合もありますのでこれで終わりますが要望しておきます。

事務局           ありがとうございました。

議 長           はい、ありがとうございました。他ございませんでしょうか。無いようでございますので、これで「なわて高齢者プラン」についての審議は終了させていただきます。これで本日予定しておりました案件は全て終了しました。長時間に渡り貴重な意見をいただきまして、また円滑な議事の運営にご協力いただき、ありがとうございました。